

「バスケットボール」

信州産トッププレイヤーの
育成を目指して

株式会社 スペースQ

代表取締役 **鏑木 久氏**



「ウォリアーズの普及活動の一環として、メンバーが小中学生を直接指導するスクール事業にも力を入れていますね。目指す「県全体のレベルアップ」に手応えは？」

スクール事業は現在Jrユース2校を含め13校あり、受講生は250名を超えました。どの子も意欲的で、確実にスキルアップしていると感じます。また、念願の地元出身者のウォリアーズ加入については、昨年松本出身の武井弘明選手、今期は長野市出身の三ツ井利也選手が加わり計2名在籍。来期も拓殖大で活躍中の選手の獲得が決まり嬉しい限りです。チーム目標は2～3年以内にB1昇格、そして最終目標は日本一。何年かかって、そこは確実に狙います。期待して応援をお願いします。

Profile

■鏑木 久 (かぶらぎ・ひさし)

昭和33(1958)年生まれ。JR勤務を経て平成6(1994)年同社設立。Bリーグ「信州ブレイブウォリアーズ」を運営する(株)信州スポーツスピリット取締役会長。スキー準指導員。

■株式会社スペースQ

墨出し、測量、設計、施工図作成、現場管理。「揺がぬ信念」をモットーに、地域を代表する大型建築から小規模建物まで幅広く扱う。長野市松岡2-21-23。



会員の趣味を紹介するシリーズ。第十二回は株式会社スペースQ代表取締役の鏑木久さんに、バスケットボールの魅力聞いた。

「ご本業の傍ら、プロバスケットボールチーム「信州ブレイブウォリアーズ」の発足・運営に長年力を注いで来られました。その原動力は何なのでしょう。」

チーム発足の話が持ち上がったのは今から13年ほど前。当時は脱サラ・起業して十年余、業績を伸ばし経営拡大の真っ只中でした。それでも「二足のわらじ」に挑んだのは、長年バスケットボールを続けてきて、最後は県全体のレベルアップに尽くす生き方も良いと思ったからです。子どもたちに間近でプロの試合を見せてやりたい、県外の大学でプレーした選手が再び長野に戻って活躍できる受け皿を作ってやりたい。そんな思いがどんどん膨らみ、自社の社長職を2年間だけ他人に託して、チーム結成にこぎつけました。

「ご自身のプレイヤー歴は中学から40代でマスターズ全国3位に輝くまで30余年。その間中学校の外部コーチも務めるなど、プライベートはバスケ一色でしたね。」

就職先が残業のほとんどない会社で、先輩の誘いで地元のクラブチームに参加しました。そのうちアマチュアの頂点に立ちたくなり、30代で新チームを結成。「筋力バランスが偏らないようスポーツは3種目に取り組むべし」との知人の助言で、早朝5時からテニス、出勤して夜はバスケ、冬季はさらにスキー通いのストイックな毎日を送ったことも…。中学生の指導では、強いチームを目指したいとの部員の意向を受け、メンタルや食事面も徹底指導。「育てる面白さ」はこの時知りました。